特別賞

業務量調査から見えた業務負担とその改善策
―チーム活動を円滑にする通信機器の活用―

自治医科大学附属さいたま医療センター

埼玉県さいたま市
628床／職員数 1,531名（うち看護職員数795名）

課題・背景

①働きやすい職場環境の整備が必要な現状

- 一般病棟の時間外勤務が平均15時間/月/人
- 今後プラチナナースなど多様な看護師が増加する
- 職員満足度調査での「人員数が適当」の満足度が低い
- 看護師から「患者と関わる時間を確保したい」と意見がある

▶ 業務量調査を実施

②看護師間の報告・連絡の業務を改善する必要性（業務量調査の結果より）

- 病棟内の移動やスタッフ間の伝達事項の周知に時間を要し、効率的に報告・連絡ができていない現状がある

目的・目標

看護師間の報告・連絡の効率化を図り、看護実践の時間を捻出する

①看護師間の報告・連絡のための時間・移動距離を削減する

②人力に頼らない情報伝達の円滑化を図る

▶**インターコミュニケーションシステム（以下インカム）の導入による情報伝達**

取り組み内容

取り組みの流れ

2022年8月 ①情報伝達デバイスの選定 ▶インカムを採択

2022年11月 ②インカムのトライアルと機種選定 ▶一般病棟（1部署）で２週間トライアルを実施・看護師の操作習得はスムーズであることを確認

2023年1月 ③インカムの導入 ▶すべての一般病棟10部署に10台ずつ配置

①情報伝達デバイスの選定

	PHS	トランシーバー	インカム
複数人への通信	できない	できる	できる
同時通話	できる（双方向通話）	できない（交互通話）	できる（双方向通話）
免許	不要	場合により必要	不要
操作の特徴	相手のPHS番号を入力する	通信時は本体を口元に近づける	通信時に通信ボタンを押す

②インカムのトライアルと機種選定

■インカムの機種選定条件

通話可能距離	病棟内で使用するため200m程度
通信条件	医療機器に影響がない、隣の病棟と混線しない、免許不要、インターネット通信不要
同時通話可能人数	7人以上の同時通話可能
操作性	簡単な操作・設定
費用	安価
その他	小型で軽量、アルコール清拭ができる

③インカムの導入

- 日勤帯でインカムの操作に慣れた後、**夜勤帯**でも使用を開始
- 看護師は**目的に合った使用が可能**
- インカムが不足した場合、リーダーと頻回に連絡が必要なメンバーが優先的に使用するなど、**詳細な運用は部署に一任**

成果・効果

①報告・連絡に伴う時間・移動距離の削減（日勤8時間内を想定）

〇時間の削減

リーダー看護師1名が看護スタッフを探す回数 **28回** × 病棟1周（100m）に要する時間 **70秒** =**1960秒/日**

≒**32分7秒/日の削減**

〇移動距離の削減

リーダー看護師1名が看護スタッフを探す回数 **28回** × 病棟1周の距離 **100m** ＝**2,800m/日の削減**

②チーム間の連携業務の円滑化

- インカムの会話を通じて各看護師が病棟の動きを把握でき、**看護師が自発的に行動できる**ようになった

③適時性の確保

- ベッドサイドからの報告・相談に対し、リーダーは質問しながら状況確認を行い、即座に対応できた
- 病棟看護師に一斉に連絡でき、ケア実施までのタイムラグが減少した

④時間の捻出

- 看護師を探す時間が、カンファレンスや看護ケア時間に変化した
- 患者に必要な看護実践ができることや日々のリフレクションから、やりがいやモチベーション向上につながった

⑤業務の中断時間の減少

- リーダーは業務の中断時間が減少し、本来の固定チームナーシング制のリーダー業務が実施可能となった

⑥療養環境の改善

- 看護師を探す呼名がなくなり、患者にとっての雑音が減少した